

地域計画の実現支援など 来年度施策を市長に要請

福知山市農業委員会

福知山市農業委員会(略)を通じて245農区(藤田重行会長)は、市の意見を集約し、8月22日の地区営農推進協議会、来年度予算編成に(21組織、「地区推」とする要請書を大橋一夫市長に提出した。

同市では、地区推の会に農地利用最適化推進委員が就任し、集落の農区長(農業委員会補助員)と連携して地区推単位で地域計画の具体化を進めている。そのため、要望書では、地域計画実現を支える市の体制として、農業振興課に地域計画推進係

を設置することや、地区推の活動支援のため地域計画の推進活動費の事業化などを求めた。このほか、必要な農業施策として、集落営農組織の機械導入支援、農業委員会の委員報酬や農区長活動手当の増額、太陽光発電設備設置に係る市条例整備なども求めた。同市では、農業委員会の意見を参考にして施策を企画立案しており、農業者の意見が反映されている。



農業委員会の藤田会長(中央左=左から4人目)から大橋市長(中央右=右から4人目)に要請書を手渡した(8月22日)

意見交換会で農家の声を集約

「市長への意見書」を10月中旬に提出へ

南丹市農業委員会は、7月23日、「農業者との意見交換会」を開催し、参加した農家組合長や担い手農家から、地域農業の課題や市に対する要望などを聴取した。

「集落の高齢化が進み、獣害防止柵の点検補修が困難」「広域的に人材を募集し、育成する必要がある」「地域に住む人を増やす施策に力を入れてほしい」など、参加者から多数の発言があり、活発な意見交換となった。

農業委員会では、市の来年度施策に農業者の要望を反映するため、農政部会を中心に、「施策の改善に関する意見書」の検討を進めている。この意見書は、10月7日の総会で決定し、10月中旬に浅田均会長から西村良平市長に提出する予定だ。



農業委員会と農業者の意見交換会(7月23日)

管内研修で農業経営者と意見交換

京丹後市農業委員会

京丹後市農業委員会は、8月18日に農業委員10人で管内視察を行い、



管内研修で農業経営者と意見交換(竹田農園、8月18日)

農から始める

「コミュニティづくり」を推進

与謝野町岩屋区長 山崎政巳さん

与謝野町岩屋区長の山崎政巳さん(70)は、町から始める地域コミュニティの小学生や飲食業者の



山崎区長(左)と移住者の若井一実さん

京 都

京都府支局 京都府農業会議

京都市上京区出水通油小路東入丁子風呂町104-2
府庁西別館内
075・441・3660

イチゴ、落いもなど

特産を支える農委副会長

精華町 井上和也さん

精華町菅井地域で、イチゴ、万願寺とうがらし、伏見とうがらし、わさび菜、落いもなどを栽培する井上和也さん(66)。町内で約20年間、書店を経営した後、15年前にJAのハウスリースを活用して万願寺とうがらし栽培を開始し、現在まで順調に農業経営を拡大してきた。

農deみらき

主作物のイチゴは、ハウス6棟で6品種を栽培。12月5月まで生産し、町内の洋菓子店などに出荷。3月5月には、いちご狩りも実施している。



万願寺とうがらし、伏見とうがらしのハウスを紹介する井上さん

女性委員が “つないで発信”

井手町農業委員会で、利用最適化推進委員と杉は、昨年6月の委員改選で女性委員が2人に増え、新任の横田好美農地

農産加工で地産地消や 地元産品のPRを推進

井手町農業委員会



石垣フレッシュグループの味噌づくり

これからも、農業委員会の情報発信を通じて、若い女性や後継者・半農半Xなど多様な形で農業を続けられる環境づくりに取り組んでいきます。(井手町農業委員会・杉山徳子委員、横田好美委員)

て、農村文化の継承につなげている。また、岩屋区では、空き家に隣接する農地を家庭菜園として整備。移住希望者に「農のある暮らし」を体験してもらい、定住につなげている。この家庭菜園では、移住者が野菜作りの楽しさや収穫の喜びを実感できることに加え、地域住民との交流も生まれている。岩屋区では、農業体験

や家庭菜園の取り組みにより「持続可能な地域づくり」の基盤を築き、地域コミュニティの結束強化につなげている。(与謝野町農業委員会)